

総 説

乳児を抱える母親のMaternal Confidenceおよび Maternal Confidenceを育成する看護介入に関する文献検討

Literature Review of Maternal Confidence in Mothers with Infants and the Nursing Intervention to promote for Maternal Confidence

岩 崎 順 子 (Junko Iwasaki)* 野 嶋 佐由美 (Sayumi Nojima)*

要 約

本研究では、Maternal Confidenceの概念および看護介入に関して文献検討をおこなった。Maternal Confidenceは様々な理論により定義されておりBanduraのSelf-Efficacyの理論では自己効力感と行動の相互効果のプロセスとして母親自身が親としての課題や状況を有効に調整、達成することができると自信をもつことであり、母親の主観的な捉えが行動を予測する重要な要因として論じられていた。また構成概念として、母親としての子どもの世話に関連する【子どもとの生活に関する行動】【子どもとの生活に関する知識】、子どものニーズや理解に関する【子どもの理解に関する感受性】、育児の課題や状況に対する効果的な調整といった【育児に関するマネージメント】、子どもの健康、成長・発達への関わりといった【子どもの健康の保持・増進】を含んでいた。これらMaternal Confidenceを高める看護介入として、児の合図をよみとり感受性を高める看護介入、育児を肯定・尊重する看護介入、育児技術に関する具体的な看護介入等が有用であった。

キーワード：Maternal Confidence 看護介入 母親

I. は じ め に

現代社会は、少子高齢化へと向かっており、家族や地域における育児機能は低下し、身近なサポートが少なく、子育て中の母親は深刻な課題を抱えている。育児で苛々することが多い母親はこの約20年間に1割から3割に増加、約2割が「子どもの育て方について自信がもてない」と回答している。2008年度の児童虐待相談件数は統計開始の2011年と比較すると5.7倍に増加しており、厚生労働省の平成23年度の統計では56例58人の児童が虐待死しているとの報告がなされている¹⁾。これに対して、我が国の政策では「子ども・子育て応援プラン」に基づき地域の子育て支援等、総合的な取り組みを進めているところである²⁾。一方、2008年度においては、企業を含めた地域ぐるみでの子育て支援に関する取り組みの普及を図るとともに、妊婦健診の公費負担の拡充、保育所等の集中的整備など、

喫緊の重点的な対応をはかり、母親が安心して子育てができる社会をつくっていくことが大きな課題となっている。看護専門職も、母親が子どもを産み育てることを支援する重要な役割を担っていかなければならない。

妊娠・出産・育児に関する研究は、従来、母性や母性意識という母親に焦点を当てた研究が蓄積されてきたが、近年Maternal Confidenceが母親となる過程に深く関与しているとして注目されている。Maternal Confidenceは、母親になる過程は学習や経験により導かれるものとして注目しており、母親になることが、先天的な要因ではなく、妊娠・出産・育児といった過程で獲得されるという理論的な根拠となっている。八重樫ら³⁾は母親の子育て不安と児童虐待との関連性を報告しており、また、東ら⁴⁾は育児困難状況に関連する要因として母親の子育てへの自信のなさを報告している。母親が母親になること、母親であることに安心感や自信をもって

*高知県立大学看護学部

いることが子どもを育てていく上で重要であるといえる。Maternal Confidenceの概念は、Self-Efficacyの理論⁵⁾やRubinの理論⁶⁾から様々な定義づけられており、母親としての課題や取り組み、子どもとの関わり、そして、母親としての成長発達に関連している。Maternal Confidenceは、母親が母親としての行動を行うにあたって自分が行動をとる能力があるとする、主観的なとらえとして母親になる過程を導くための重要な概念である。

そこで本論文では、Maternal Confidenceの概念および看護介入に関する文献検討をおこない、Maternal Confidenceを育成する看護介入についての示唆を得ることを目的に文献検討を行う。なお、文献検索は「Maternal Confidence」「母親」「自信」をキーワードに、1994～2013年までの期間、文献検索を行った。国内の文献については、医学中央雑誌を用いて「母親」「自信」をキーワードとして検索し、さらに看護文献、原著論文で絞り込み、65文献を対象文献とした。海外の文献についてはCINAHLを用いて「Maternal Confidence」をキーワードとして検索し26文献をとりあげた。

II. Maternal Confidenceに関する 理論・概念定義についての文献検討

Maternal Confidenceの概念は、海外において1980年代より、また我が国においては2007年より注目され研究報告がなされている。

1) Maternal Confidenceの概念定義について

Maternal Confidenceの考え方は、Rubinの理論およびHillの役割能力⁷⁾の理論およびSelf-efficacyの理論的背景により定義されている。ここでは、Rubinの「母親としての自己の確立のプロセス」の考え方に根付いたMaternal Confidenceの概念定義を検討する。

Maternal ConfidenceはRubinによるMaternal Identityと親密に関係しており、これらに影響されながら発達すると論じられている^{7)~9)}。Rubinの理論によれば、3つの領域（理想的自己、自己像、身体像）を含むMaternal Identityは、妊娠中からの模倣、空想、脱分化を通して

Maternal Identityを自己システムに取り組みでいく。この課程を通して女性は子どもとの結びつきを形成し、子どもとの母親になっていく。Maternal Identityの形成とともにMaternal Confidenceもまた同様に形成されるものとして捉えられており、一連のプロセスの結果によって形成・獲得されるものとしてMaternal Confidenceを位置づけている。すなわち、Rubinの理論では、Maternal Confidenceは、妊娠中からの模倣、空想、脱分化を通してMaternal Identityと同様に自己システム内に取り込まれ形成・確立するものであるとして定義される。

また、ZahrらやMercerらは、Rubinの理論に基づきMaternal Confidenceを概念定義しており、Zahrらは「実際に子どもに対してなされている世話caretakingに関連した能力や行動に対する母親の主観的な感情」⁸⁾⁹⁾、Mercerらは⁷⁾¹⁰⁾「子どもに対する技術や能力」として定義している。このように実際に育児する上での行動、技術、能力といった行動様式に焦点があてられている。さらにMaternal Confidenceは、子どもに対して行動をとる側面と、子どもとの関わりに関する側面を含んで説明されており、子どもとの相互作用に注目している。子どもに対する行動は子どもとの関わりのおかげで展開されるのであるから当然のことながら子どもとの関わりも注目される。このように育児をするうえでの行動の修得、獲得をMaternal Confidenceの一つの側面として捉えている。また、Confidenceは客観的な能力として捉える立場もあるが、Rubinの理論ではMaternal Identityという主観的な世界を重視する立場にたち、実際に何かできるかというよりも、本人の主観的な捉えを重視しているといえる。

2) Self-Efficacyの理論によるMaternal Confidenceについて

Maternal ConfidenceはBanduraのSelf-Efficacyの考えに基づいて概念化されている。Self-Efficacyの理論では、人間の行動形成には自己効力感が強く関連しているとして、自己効力感と行動の両方が、お互いに相互効果をなすプロセスであると考えている。母親としての自己効力感は、子どもの世話、育児行動に関連しているばかり

ではなく、これらの根底をなすものともいえる。この母親としての自己効力感に注目してMaternal Confidenceが概念化されている。Grossら¹¹⁾¹²⁾は「育児の課題や状況を効果的に調整すること、あるいはマネージメントすることができるという母親の捉え」として定義づけ、Ruchalaらは¹³⁾「母親への適応や、母親としての子どもへの世話に重要な影響を与えるもの」、Loweは¹⁴⁾「有害な陣痛の判断に影響を与える認知や動機」として定義づけている。Maternal Confidenceは、母親の認知的過程、動機付け、情緒的過程、選択に影響を与えるとともに、母親としての「できる」といった主観的な捉えを重視している。

Maternal Confidenceは、このような「親としての課題や状況」に対する母親の取り組み、子どもとの関わり、そして、親としての成長発達に関連している。特に子どもとの関わりの中でも「陣痛」「子どものケア」「母親への適応」といった妊娠・出産・育児の過程において重要な役割を担っていることが先行研究から明らかにされている。これらの過程における子どもとの関わりおよび親としての成長発達に関する課題には、様々な状況や課題が存在するのであり、これらをいかに有効に調整することができるのかといったマネージメントがMaternal Confidenceの大きな側面である。

このようにBandura⁵⁾の理論によれば、母親自身が親としての課題や状況を有効に調整、達成することができる自信をもつことであり、母親の主観的な捉えが母親の行動を予測する重要な要因となる。

III. Maternal Confidenceの構成概念

Maternal Confidenceの定義に関して、Gross¹¹⁾¹²⁾、Zahr⁸⁾⁹⁾、Mercer⁷⁾¹⁰⁾、Hall¹⁵⁾、Ruchala¹³⁾、Lowe¹⁴⁾らの文献を参考に構成概念について分析を行った。

Ruchala¹³⁾らは「母親への適応や母親としての子どもへの世話に重要な影響を与えるもの」として、子どもの世話という母親としての「行動」に注目し Maternal Confidenceを定義するとともに、[知識]も含めて Maternal Confidenceを測定している。また、Zahr⁸⁾⁹⁾らは「子どもへの世話や子どもの理解に関して能力があると

いった母親の主観」および「母親としての感受性や世話提供の技術」「子どもの世話に関連した能力や行動に関する母親としての主観的な感情」として定義している。この定義づけでは、母親としての子どもの世話に関連する【子どもとの生活に関する行動】の側面や、【子どもの理解に関する感受性】としてMaternal Confidenceを定義している。このMaternal Confidenceの【子どもとの生活に関する行動】、【子どもの理解に関する感受性】といった側面はMercerら⁷⁾¹⁰⁾も同様に注目しており「子どもに対する技術や能力」「子どもの発達を促進する技術や感受性を持ち、子どもの世話をする能力の獲得」として子どもへの世話および技術といった母親の「行動」および子どもに対する「感受性」としてMaternal Confidenceを定義している。また、Hallら¹⁵⁾は Maternal Confidenceを「児の世話に関する知識や、児のニーズの見極め、子どもへの世話への自信といった経験として進行する上での基礎となるもの」として Maternal Confidenceを定義している。この定義では児のニーズに対する【子どもの理解に関する感受性】、子どもの世話に関する【子どもとの生活に関する行動】として定義づけすると共に、児の世話に関する【子どもとの生活に関する知識】の側面にも注目している。

また、Grossら¹¹⁾¹²⁾は Maternal Confidenceを「育児の課題や状況を効果的にマネージメントすることに関しての母親の捉え」および「子育ての課題や状況を効果的に調整することあるいはマネージメントすることができるという母親の捉え」として定義づけており、育児の課題や状況に対する効果的な調整といった【育児に関するマネージメント】の側面に注目している。

出産後4ヶ月における母親のMaternal Confidenceに関する研究では、構成概念として【子どもの健康の保持・増進】が抽出されており子どもの健康、成長・発達の側面も重要であるといえる。

文献研究の結果、Maternal Confidenceの構成概念として【子どもとの生活に関する知識】【子どもとの生活に関する行動】【育児に関するマネージメント】【子どもの理解に関する感受性】【子どもの健康の保持・増進】の5つを抽出することが判明した。

IV. Maternal Confidenceへの影響要因について

Maternal Confidenceは、母親、新生児の状況、家族等様々な要因から影響をうけることが報告されている。母親の要因として、高年齢⁸⁾、教育レベルの高さ¹¹⁾、出生前教育への参加¹¹⁾、よい出産体験¹⁶⁾、出産後のストレスの低さがMaternal Confidenceと正の相関があると報告されている¹⁴⁾。また、育児経験のある者のほうがMaternal Confidenceは高く⁷⁾¹¹⁾¹²⁾¹⁹⁾、出産後の時間的経過によってもMaternal Confidenceは高くなると報告されており¹⁰⁾¹⁵⁾²⁰⁾、出産後の育児経験によってもMaternal Confidenceは高くなるといえる。児の要因としてMaternal Confidenceは、児の出生時期によっても影響をうける。早期産の母親は正期産の母親よりもMaternal Confidenceの発達は劣っており⁷⁾⁸⁾⁹⁾¹⁹⁾、児が医学的な危険から脱した後においても母親としての行動は異なり24ヶ月の時点では、児への刺激や肯定的な側面が低いスコアを示している。早期産の母親にとっては、児の身体的なリスクやNICUへの入院など予期できないストレスフルな状況がMaternal Confidenceに影響を与えConfidenceを低下させる⁹⁾²¹⁾。その他、Maternal Confidenceと家族機能とは負の相関関係がみられると報告されている⁷⁾¹⁹⁾。妊娠、出産、育児は家族にとって危機的状況であり適応に向けての再編成の期間でもあるため家族機能は低下する。しかしこのような家族状況にありながらもMaternal Confidenceは上昇することを示している。

V. Maternal Confidenceを高める看護介入

Maternal Confidenceを高める看護介入として様々なアプローチが報告されている。

1) 児の合図をよみとり感性を高める看護介入

前原²²⁾は、入院中の授乳場面および面接による介入と退院後の家庭訪問による介入を実施、その結果、介入群は母親役割の自信尺度「合図のよみとり下位尺度」得点が有意に高かったと報告している。効果が認められた看護援助は、『わが子の表情・行動・生理的反応への気づきを促す』『わが子の哺乳欲求をよみとる能力を

高める』『新生児期の行動特徴の理解を深める』『わが子の合図やリズムの特徴をつかむことを促す』『わが子からの合図であるという認識を強化する』『わが子の要求を解釈する体験を共有し、合図のよみとりを保証・修正する』であった。本間²³⁾も同様に母親役割獲得のためのケアとして児の欲求のサインへの反応の読み取りを高めることが母親の自信につながると報告している。Maternal Confidenceは、児との生活の中での相互作用を通して育まれていき、子どもの理解に関する【子どもの理解に関する感受性】を高めるアプローチが重要であるといえる。児の合図をよみとり感性を高める看護介入は、本文献検討から明らかになったMaternal Confidenceの構成概念の【子どもの健康の保持・増進】【子どもの理解に関する感受性】に関する介入である。

2) 育児技術に関する具体的な看護介入

妊娠期より育児をイメージできる疑似体験が、出産後の育児に対する不安を軽減させ、母親の自信に繋がっていくと多くの研究で報告されている^{28)~30)}。妊娠期間中に育児演習型母親学級として「話しかけ・アイコンタクト・スキンシップ」「抱き方」「おむつ交換」「沐浴」の4項目の演習を行ったところ、出産後1ヶ月後ではこれらの項目に関する自信が形成されたと報告されている²⁹⁾。出産後も同様に母親の話を傾聴・共感し、寝かせ方等母親が習得できるまで具体的に指導を行うことで、母親が自信を持つことができている。助産師の支援として「育児への肯定的なイメージをもつ」ことができる関わりは重要であり、妊娠期・育児期での具体的な育児技術に関する看護介入は、児との生活に関する行動へのMaternal Confidenceを高める上で重要であるといえる。

育児技術に関する具体的な看護介入は、本文献検討から明らかになったMaternal Confidenceの構成概念の【子どもの健康の保持・増進】【子どもとの生活に関する知識】【子どもとの生活に関する行動】【育児に関するマネジメント】に関わる看護介入である。

3) 母親の試行錯誤を支え、育児を肯定・尊重する看護介入

小林²⁴⁾は、産後1ヶ月における母親としての自信をつける介入として、母親ができるようになったと感じることや頑張ったと思えることの母親の語りを聴き、承認、保証、肯定的な評価を伝えることの大切さを述べている。また、近藤²⁵⁾は、生後6ヶ月未満の乳児を育てている母親への育児教室において「比較ができ、違いを納得できる」「悩みを成長のプロセスの中で考えられる」「共感でき承認を得たと思える」といった働きかけにより母親は自己の成長を自覚し自信をもつことができると述べている。母親自身が自らの育児について肯定的に受け止めることができる関わりが重要である。風間²⁶⁾は、退院後の授乳に関する問題解決行動への関わりの方針において「まるごと認める」「しょっちゅう側にいてずっとよくみている」という2つが助産師の関わりのコアであり、母親の自信につながり、さらには主体的な行動を促すことになっていると報告している。同様に石井²⁷⁾も、出産後早期の授乳指導場面での関わりにおいて、「助産師の意図的会話と支持的態度（つりあった相互作用）」、「助産師の受容的態度（癒される相互作用）」が母親の授乳に対する疑問や不安を表出させ、授乳に対する自信や安心感につながると報告している。母親が育児を行う中で悩む過程を支え、主観的な捉えを肯定し尊重する関わりがMaternal Confidenceを高めている。

4) 周囲からのサポートを高める看護介入

ソーシャルサポートが得られるほどMaternal Confidenceは高く、その主なサポート者は夫および、実母である¹³⁾ことより、周囲からのサポートを高める看護介入もまた、重要である。知念ら³¹⁾の不妊治療後、出産した女性の主観的体験として、「満足のいく周囲からの育児サポート」によって母親は、「子育てに自信」を持ち「母親としての責任」を感じていた。母親の育児体験認知として周囲からの「支援認知の高さ」があると、「自己報酬型自己イメージ」を促進し、「育児体験認知」に影響する傾向が示唆されており³²⁾、母親への周囲からサポートを高めに行く看護介入も望まれる。

5) プログラムを開発し、プログラムに基づく看護介入

Maternal Confidenceを高める看護介入として、その他様々な看護介入が報告されている。頭川ら³³⁾は、育児に悩む母親を対象としたグループプログラムの結果、参加前後において母親の自尊感情尺度や家族機能尺度の得点が上昇する傾向が示されたと報告している。母親は、同じ悩みを持つ人同士で話ができ気持ちが楽になり、子どもへの叱り方や褒め方のコツを学んでおり、グループダイナミクスを利用したグループでの教育が、育児に対する意欲や自信につながっている。また、母親が児に行うタッチケア³⁴⁾を行うことで母親自身が癒され、心にゆとりが生じ、それにより児を純粋に愛せるという良いサイクルができ、母子の絆を深める効果があると方向づけられている。母親は、タッチケアを通じて日常の体調チェックや健康的な生活リズムを意識する機会が増え、接し方に手応えや自信を得ており、児への積極的で直接的な母親の関わりもMaternal Confidenceを高める支援として有用である³⁵⁾³⁶⁾。

その他、SAT療法として母親のストレス軽減と育児自信支援に関する介入³⁷⁾やナラティブ・アプローチによる看護介入により母親としての自信は高まるとの報告³⁸⁾もある。

VI. 結 論

本研究では、Maternal Confidenceの概念および看護介入に関して文献検討を医学中央雑誌およびCINAHLを用いて文献検討をおこなった。

Maternal Confidenceは、Rubinの理論およびHillの役割能力の理論およびSelf-efficacyの理論的背景により定義されている。Rubinの理論ではMaternal Identityという主観的な世界を重視する立場にたち、実際に何かできるかというよりも、本人の主観的な捉えを重視し、これらに影響されながら発達すると論じられている。また、BanduraのSelf-Efficacyの理論では、人間の行動形成には自己効力感が強く関連しているとして、自己効力感と行動の両方による相互効果のプロセスであると考えており、母親自身が親としての課題や状況を有効に調整、達成することができる自信をもつことであり、母親

の主観的な捉えが母親の行動を予測する重要な要因として論じられている。これらの理論的背景のもとMaternal Confidenceの構成概念として、母親としての子どもの世話に関連する【子どもとの生活に関する行動】、子どもの世話に関する【子どもとの生活に関する知識】、子どものニーズや理解に関する【子どもの理解に関する感受性】、育児の課題や状況に対する効果的な調整といった【育児に関するマネジメント】、子どもの健康、成長・発達への関わりといった【子どもの健康の保持・増進】が含まれていた。また、Maternal Confidenceは、育児経験の有無、母親の年齢、児の健康状態、家族のサポート状況など、様々な母親、児の状況、家族の要因等により影響をうけており、影響要因を含めた関わり支援が重要であることが示唆された。

これらMaternal Confidenceを高める看護介入として、1. 児の合図をよみとり感受性を高める看護介入、2. 育児技術に関する具体的な看護介入、3. 母親の試行錯誤を支え、育児を肯定・尊重する看護介入、4. 周囲からのサポートを高める看護介入、5. プログラムを開発し、プログラムに基づく看護介入が明らかとなった。今後、更に具体的で広く活用できるMaternal Confidenceを高める看護介入の開発が望まれる。

<引用・参考文献>

- 1) 厚生労働省ホームページ 児童虐待の定義と現状：
http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo_kosodate/dv/about.html
- 2) 厚生労働省ホームページ 「子ども・子育て応援プラン」の概要：
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/ouenplan-gaiyou.html>
- 3) 八重樫牧子、小河孝則、田口豊郁、他：乳幼児を持つ母親の子育て不安に影響を与える要因 子育て不安と児童虐待の関連性、厚生指針、55(13)、1-9、2008.
- 4) 東雅代、西村真実子、米田昌代、他：乳幼児をもつ母親の育児困難の状況 母親および子育て支援に関わるエキスパートへのフォーカス・グループ・インタビューから、石川看護雑誌、6巻、1-10、2009.
- 5) Bandura, A : Self-Efficacy, Toward a Unifying

Theory of Behavioral Change Psychological Review, 84(2), 191-215, 1997.

- 6) Rubin, R, 新藤幸恵・後藤佳子訳：ルバア・ルービン母性論 母性の主観的体験、医学書院、1997.
- 7) Mercer, R,,T & Ferketich, S, L : Experienced and Inexperienced Mother's Maternal Competence During Infancy. Research in Nursing & Health, 18, 333-343, 1995.
- 8) Zhar, L, : The Relationship between Maternal Confidence and Mother-Infant Behaviors in Premature Infants. Research in Nursing & Health, 14, 279-286, 1991.
- 9) Zhar, L : The Confidence of Latina Mothers in the Care of Their Low Birth Weight Infants. Research in Nursing & Health, 16, 335-342, 1993.
- 10) Mercer, R, T, Ferketich, S, L, Joseph, J else : Effect of Stress on Family Functioning During Pregnancy, Nursing Research, 37(5), 268-275, 1988.
- 11) Gross, D. Rocissano, L & Roncoli, M : Maternal Confidence during toddlerhood, Comparing preterm and fullterm groups, Research in Nursing & Health, 12-19, 1989.
- 12) Gross, D & Tucker, S : Parenting Confidence During Toddlerhood, Nurse Practitioner 25, 29-34, 1994.
- 13) Ruchala PL : Social support, knowledge of infant development, and maternal confidence among adolescent and adult mothers. JOGNN: Journal of Obstetric, Gynecologic & Neonatal Nursing, 26(6), 685-689, 1997.
- 14) Nancy, K, Lowe : Maternal Confidence for Labor. Development of the Childbirth Self-Efficacy Inventory, Research in Nursing & Health., 16, 141-149, 1993.
- 15) Hall, W, A, Shearer, K & Kavanagh, R : Comparison of Confidence between Mothers Who Breatfed and Formal Fed Their Preterm Infants, 9, 4-15, 1997.
- 16) Jane, D. & Debra, R : Childbirth Confidence valididating the childbirth self-efficacy inventory (CBSEI) in an Australian sample. Journal of Advanced Nursing, 26, 613-622, 1997.

- 17) Patsy, L & Dotti, C: Social Support Knowledge of Infant Development, and Maternal Confidence Among Adolescent and Adult Mothers. JOGNN, 11-12, 685-689, 1997.
- 18) 小林康江: 日本語版「母親としての自信質問紙 (Maternal Confidence questionnaire)」の信頼性妥当性の検討、山梨県母性衛生学会誌、9(1)、251-260、2009.
- 19) Ferketich, S & Mercer, R, T: Predictors of Role Competence For Experienced and Inexperienced Fathers. Nursing Research, 44(2), 89-95, 1995.
- 20) Reece, S & Harkless, K: Self-Efficacy, Stress, and Parental Adaptation. Applications to the Care of Childbearing Families. Journal of Family Nursing, 4(2), 198-215, 1998.
- 21) Bull, M & Lawrence, D: Mother's use of knowledge during the first postpartum weeks. Journal of Obstetrics and Gynecologic Neonatal Nursing, 14, 315-319, 1985.
- 22) 前原邦江: 産褥期の母親役割獲得過程、母子相互作用の経験を通して母親役割の自信を獲得していくプロセス、日本母性看護学会誌、5(1)、31-37、2005.
- 23) 本間 美希: 若年産婦の母親役割獲得に必要なケアの検討、川崎市立川崎病院事例研究集録14回、31-35、2012.
- 24) 窪田陽子、小林 康江: はじめて育児をする母親の産後1ヶ月における母親としての自信をつける介入、日本助産学会誌、26(2)、232-241、2012.
- 25) 近藤 明代: 母親の認識の変化をもとにした地域における育児教室のあり方の検討、小児保健研究、65(3)、448-455、2006.
- 26) 風間 仁美: 授乳に関する母親の問題解決行動を促すためのかわりに関する研究、開業助産師のかかわりの原点、母性衛生、50(2)、373-380、2009.
- 27) 石井 ともみ、島袋 香子、緒方 真由子: 母乳育児を行う母親に対する授乳指導の検討、母親と助産師の相互作用に影響する要因の分析から、北里看護学誌、10(1)、1-8、2008.
- 28) 福田 夏子、坂原 叔子、大森 礼織他: 母性不安を抱える妊婦・産婦への継続的ケア、不安に対する指導・援助の有効性の検討、日本看護学会論文集:母性看護、38、29-31、2008.
- 29) 田端 五月、松浦 和代、野村 紀子: 育児演習型母親学級の効果に関する研究、日本母性看護学会誌、5(1)、61-69、2005.
- 30) 出路 直子、筒井 詠子: 育児不安のある母親との関わりから学ぶ育児支援のあり方、愛仁会医学研究誌、41、130-131、2010.
- 31) 知念 久美、玉城 清子: 一般不妊治療後妊娠した女性の母親役割獲得、妊娠・出産期から産後3ヵ月までの主観的体験、沖縄県立看護大学紀要、12、25-35、2011.
- 32) 田村 知栄子、眞崎 由香、宗像 恒次、他: 乳幼児を持つ母親の育児体験認知と自己イメージ、支援認知との関連、日本保健医療行動科学会年報、27、200-212、2012.
- 33) 頭川 典子、北山 秋雄: 育児に悩む母親に対するグループプログラムの効果、母親の変化と家族関係の変化に着目して、小児保健研究、70(3)、371-379、2011.
- 34) 石黒 香里、萩原 暢子: 育児支援に活かすタッチケアの効果、保育と保健、18(2)、53-56、2012.
- 35) 中岡 佳子、村田 麻子、前田 由紀、他: 両側腎腫瘍の幼児に対しベビーマッサージを施行して 母にとってのベビーマッサージの効果を考える、日本看護学会論文集:小児看護、39、9-11、2009.
- 36) 石浜 みち子: インファントマッサージをとおした子育て支援の成果、看護技術、52(6)、73-76、2006.
- 37) 矢島 京子、橋本 佐由理: 子育て中の母親のストレス軽減と育児自信支援に関する介入研究、ヘルスカウンセリング学会年報、13、47-57、2007.
- 38) 川村 千恵子、森 圭子: 乳幼児をもつ母親への助産師によるナラティブ・アプローチの効果研究、日本保健医療行動科学会年報、26、104-117、2011.